

図書館だより

目次

古代ローマの図書館	——新海 邦治	1
100周年記念出版『写真が語る日本女子大学の100年 —そして21世紀をひらく』の紹介	——成瀬記念館	2
『写真で綴る桜楓会の100年』の紹介	——中島 直子	3
日本女子大学図書館友の会第40回・ 平成17年度総会開催される		4
「今、学生にすすめる本」一覧（I）		5
玄関ホール展示「書くこと —日本女子大学所蔵資料による—」実施される		8



古代ローマの図書館

新海 邦治

「トゥスクルムに滞在していた時、私は少年ルクッルス書の書庫から書物を何巻か利用させてもらいたいと思い、彼の別荘に行った。いつもそうしていたように、それらの書物を自分で取り出すためだった。着いてみると、そこに居るとは思いもしなかったマルクス・カトーの姿が目に入った。彼はたくさんのストア派の書物に囲まれて、書庫の中に坐っていた。」

キケロは『善と悪の究極について』の一節でこのように語っている。前74年にコンスルを務めたルクッルスはミトリダテス戦役で戦功をたて、隠退後はその贅沢な生活ぶりでも知られていたが、同時に書物の収集と公開に努めた人でもあった。その恩恵に与るべく多くのギリシア人が彼の館に集い、雑事を忘れて時を過ぎた様子をプルタルコスが伝えている。ルクッルスの死後、書庫は同名の息子に遺された。キケロは自らが、書物の整理に専門家テュランニオンを雇う程の蔵書家であったけれども、膨大な蔵書を一般に公開していたルクッルスの書庫を利用することが度々あったのである。ストア哲学を信奉し、共和制の熱烈な擁護者としてカエサルに最後まで抵抗した小カトーも、その点は同様だったのであろう。彼は北アフリカのウティカで自刃する直前まで、プラトンを繙いていたと伝えられる程の読書家だったのである。

しかし、公開されてはいても、ルクッルスの書庫はあくまで個人の所有物だった。キケロや小カトーにとって利用可能な公共の図書館は、まだ存在しなかった。スエトニウスの『ローマ皇帝伝』によれば、カエサルは首都整備の一環として、神殿や国道の建設などと並んで、ギリシア語とラテン語の書物を収集し公開することを計画したという。カエサル暗殺によって日の目を見ずに終わったこの計画は、その後、彼の部下でもあったポッリオの手で実現する。ローマにおける初の公共図書館である。しかしこの図書館は、現在その痕跡を留めていない。スエトニウスは更に、アウグストゥスによる図書館建設のことを伝えている。パラティウムの丘に彼は柱廊を備えたアポロン神殿を建てたが、そこにはラテン語とギリシア語の図書館が併設されたというのである。遺跡の考古学調査によれば、書架を納めたと見られる18の壁龕を配した二つの部屋があり、書物は言語別にそれぞれの部屋に収納されたらしい。ギリシア語文献に一室を充てていたことは、ルクッルスの書庫に多くのギリシア人が集まって来た理由を説明するものでもあろう。ローマによるギリシア文化受容の実態を、ローマにおける図書館の蔵書構成は直接的に反映していたのである。

(図書館長・文化学科教授)

100周年記念出版『写真が語る 日本女子大学の100年—そして21世紀をひらく』の紹介 成瀬記念館



本書は本学100年の歴史を、「最も読み易く、最も活用し易い通史」として現わすことを主眼に、編纂したものである。

巻頭のグラビア「日本女子大学・学園のいま」は、両キャンパスと軽井沢三泉寮の風景および、大学から附属豊明幼稚園までの授業風景等のカラー写真によって構成し、続く7つの章「20世紀の夢をひらく」「大正デモクラシーの波のなかで」「新キャンパスを開く」「新制・日本女子大学の誕生」「教育改革へ向けて」「新世紀への胎動」「創立100年を超えて」では、19世紀末に成瀬仁蔵によっ

てなされた本学創立運動の経緯から、2004年12月までの学園の動きを、写真と資料で綴っている。

2001年の本学創立100周年には、それを記念していくつかの記念出版がおこなわれた。なかでも日本女子大学創立百年史編纂委員会が、いわゆる『百年史』に替わるものとして刊行した『日本女子大学学園事典—創立100年の軌跡』と『年表 日本女子大学の100年』は、記念出版の柱ともいえるもので、特に『学園事典』は企画のユニークさの点からも、多方面から評価されている。しかし一方で、100年の歴史を通史として編集・刊行することも期待され続けていたことから、最も読み易く活用し易い、百年史としての写真集を編む企画が遅れてスタートすることになったのである。

2002年10月、先の編纂委員会は既に解散していたため、同委員会の元メンバーを中心に小規模の編纂委員会と実務担当者の会を再度組織したが、本格的な編集作業の開始は2003年5月になった。それから2年足らずの時間で、多くの協力者の力を得、資料調査、写真や文書の選択、原稿作成、撮影依頼、写真借用等をおこない、この規模の出版物としては短期間で完成させたものである。

本写真集は読み易く、活用し易く編むことを第一の課題としていたため、当初は写真に語らせて解説文は極力少なくする方針で作業を進めたが、見本ページの写真の意味を問う声が早速あがる一方、適当な写真が無いために重要な学園事項が収録もれになってしまうことも分かった。その結果、『写真が語る』というタイトルであるにもかかわらず、「写真で語る」あるいは「写真が無くて語る」というやや強引な編集方法をとらざるを得なくなった。

また、本学園には創立80周年記念に作られた『図説 日本女子大学の八十年』があり、収録写真がそれと重複するのではないかとということも心配された。そこで本写真集では、『図説』がページの多くを戦前期に費やしているのに対し、戦前の40年分に全ページの三分の一を、戦後の60年分には三分の二を当てるという方針を立てた。しかし結果は種々の理由により予定通りにはならず、ページ数では戦前期が43パーセント、戦後期が57パーセントということになってしまった。しかし写真等の収録点数は、それぞれ約320点と520点ということなので、辛うじて責務を果たせたのではないかと考えている。

A4判横型・ソフトカバー、総ページ数175のこの写真集が、単に学園100年の記念出版物としてではなく、縁ある私たちが共に学園をよりよく知るための手掛かりとして、また、明日の教育を創造するための手引きの一つとして活用されることを願っている。

(購入ご希望の方は成瀬記念館および西生田記念室へお問い合わせください。)



『写真で綴る桜楓会の100年』の紹介

社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会

本書は2004年、(社)日本女子大学教育文化振興桜楓会が設立百周年を迎え、その記念事業の一環として発行されたものである。

桜楓会には、正史としては、1984年に編纂された『桜楓会八十年史』(A5版580ページ)がある。今回は、『写真で綴る桜楓会の100年』と題して企画され、設立以来、会に保存されている写真(戦前のもので、約3800枚を数える)、成瀬記念館より借用したもの、会員より提供されたものに加えて、新たに撮影したものの中から選び出し収録した写真中心の百年史である。

桜楓会には、桜楓会設立当初より機関紙として『家庭週報』——現『桜楓新報』、『花もみち』『桜楓会通信』があり、それらの資・史料に基づいて



て本誌は編纂されている。

史実に忠実であり、見て読んで楽しく、親しんでいただけるものになりたいと出版・編集委員が2年にわたり真剣に取り組んだものであり、その熱意が反映されている。

内容を紹介すると、まず見返しに設立頃の学園を中心に目白の古地図があり当時の様子がしのばれる。口絵には、歴代会長・理事長、設立時の様子、学校と桜楓会の今と昔が掲載され、本文は、100年の歴史を「桜楓会創生の時代」「桜楓会発展の時代」、「桜楓会新時代への変革」、「桜楓会の現在」と4つに区切り、生き生きとその活動の流れをたどることができる。

また桜楓会の支部は、全国組織的に展開されており、その重要な役割を担っている活動の歴史は「支部の歩み」の項目にそれぞれの支部の報告とともにまとめられ、いかに桜楓樹が広く根を下ろしているかを物語っている。

このような構成に、さらに年表、定款・組織図・歴代役員名簿などを加え、写真643枚を収録した203ページにわたる記念誌として集大成されている。

この記念誌を共有することにより、7万人にもほっている桜楓会会員一人一人が創業者成瀬仁蔵の理想とした桜楓会員のあるべき姿を新たに再認識し、桜楓会活動を通じて「人として、婦人として、国民として」社会貢献に務めることを希望してやまない。また、この記念誌が会員のみならず多くの方々の目に触れることで、桜楓会の100年をわかっていたただけると同時に明治以降の女性の歩みとしての貴重な資料となるものと確信している。

そして、20世紀初頭の1904年に発足した桜楓会が、この100年間の幾多の変遷の中において、貴重な活動と体験をしたことを、本誌を手にするにより再認識していただき、温故知新、不易流行の線に沿って、変化の激しい21世紀においても、桜楓会がますます進展していく一助になれば幸いである。

(理事 中島直子)



日本女子大学図書館友の会第40回・平成17年度総会開催される

図書館5階西南角に、日本女子大学図書館友の会の事務室がある。図書館友の会は、日本女子大学図書館の充実発展に寄与することを目的としている。目白の現図書館開館1年後の1965（昭和40）年6月23日（本学創立者成瀬仁蔵先生の生誕記念日）に、第6代学長上代タノ先生の提唱により創設された。会員は本学教職員、卒業生、在学生やその父母その他（一般）で組織され、会員数は現在436名。本年6月23日でちょうど40周年を迎える。

図書館友の会第40回・平成17年度総会は5月17日（火）午後目白キャンパス百年館504会議室で開催された。友の会役員でもある石山常子氏の司会で午後1時に開会し、会員約40名が出席して進められた。最初に図書館友の会会長・学長後藤祥子先生が挨拶された。図書館友の会は、40年前に上代タノ先生がお作りになって、それ以来ずっと友の会からは様々なことにご援助いただいていること、講座などの活動もずっと続けておられることなどについて、謝辞を述べられた。続いて図書館長新海邦治先生が、大学が緊縮財政といわれる中で、しかし図書館は問題なくやっている。図書館友の会からは、図書購入援助の寄付を毎年いただいている。本年も期待しているので、どうぞよろしくと挨拶された。

総会の議長に齊藤令子氏が選出され、議事に入った。平成16年度の事業報告は阪田香公子氏、上代タノ平和文庫報告は松本晴子氏、卒業生著作調査報告は藤岡恵實子氏が報告された。事業報告としては、「近代女性文学（続）を読む」（講師：日本文学科倉田宏子教授）他5コースの講座・読書会を開催、「上州路文学散歩」（萩原朔太郎記念館ほか）などの研修会を年3回実施、友の会会報を年3回発行などの報告がなされた。上代タノ平和文庫報告では、平和文庫の選書を担当されている平和文庫運営委員の紹介があった。平成16年度は約22万円・139冊の図書が選書・購入された。昭和46年11月に平和文庫が発足した当時は846冊であったが、現在は7,150冊となっている。平和文庫として購入した図書の費用の累計は9,652,740円である。「平和とは何か」を考えさせらる今、平和文庫を継続・発展させてゆきたいと報告された。「上代タノ平和文庫」は、図書館5階の書架上に配置され、貸出もできる。次に会計担当の中山蓉子氏による決算報告の後、監事石山常子氏の監査報告があり、決算は拍手で承認された。続いて平成17年度事業計画案および予算案説明が常任理事飯塚美子氏によってなされ、事業計画案および予算案は拍手で承認された。



上代タノ平和文庫報告・松本晴子氏

議事終了の後、日本女子大学図書館友の会40周年を記念しての花束が、図書館より友の会副会長徳末愛子先生、常任理事飯塚美子氏に贈呈された。

上村美紗子事務部長より、図書館友の会が40周年を迎えられたことへのお祝いの言葉と、詳細な平成16年度図書館報告があった。その後友の会副会長徳末先生から、40周年にあたってのお礼の言葉があり、総会は閉会となる。

休憩・歓談の後、NPO法人ZEROキッズ代表佐々木香氏（新制30回住居学科卒）の講演会「子どもとミュージカル」が開催された。佐々木氏の紹介が、玉置好子氏（新制6回住居学科卒）によりなされた。NPO法人ZEROキッズは、なかのZEROホールの開館記念事業（1993）を契機として結成された。これまでに子どもたちと創るミュージカル『そらのふ・し・ぎ』他3作品が公演され、その活動に対して音楽教育振興賞を受賞している。ビデオ放映をまじえての講演からは、子どもたちとの活動が実感でき、総合芸術としてのミュージカルの創造に携わっている佐々木氏の活力と熱意が伝わってきた。最後に質疑応答があり、午後4時に講演は終了した。（田口記）



挨拶をされる後藤祥子会長

「今、学生にすすめる本」一覧（Ⅰ）

図書館だより104～122号にわたり、『「今、学生にすすめる本」特集』を連載しました。本学の先生方より紹介して頂いた本は200冊近くになり、一覧にしました。推薦された先生には既に退職された方もおられますが、それぞれの本が今でも大学生の知的関心を存分にかき立てるものであることには変わりありません。3回に分けて連載いたします。

* 推薦された先生方の所属は、2005年4月現在のものです。

推薦者 (所属学科)	タイトル 著者／訳者・編者 出版者(叢書名など)	請求記号 (所蔵)・掲載号
河内 十郎 (児童学科)	『言語の脳科学－脳はどのようにことばを生みだすか－』 酒井 邦嘉著 中央公論新社(中公新書)	/491.37/Sak (目西)・118
室 俊司 (元児童学科)	『フランクリン自伝』 フランクリン著／松本慎一, 西川 正身訳 岩波書店(岩波文庫)	/289.3/Fra (目)・106
	『エミール』 ルソー著／今野 一雄訳 岩波書店(岩波文庫)	/371/Rou (目西)※・106
	『メキシコからの手紙』 黒沼 ユリ子著 岩波書店(岩波新書)	/302.56/Kur (目)・106
	『メキシコの輝き』 黒沼 ユリ子著 岩波書店(岩波新書)	/302.56/Kur (目)・106
	『こころの旅』 神谷 美恵子著 みすず書房(神谷美恵子著作集(3))	/490.8/Kam/3 (目西)※・106
	『遍歴』 神谷 美恵子著 みすず書房(神谷美恵子著作集(9))	/490.8/Kam/9 (目西)・106
大畑 祥子 (元児童学科)	『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』 津守 真著 ミネルヴァ書房	/376.1/Tsu (目西△)・108
中村 博志 (元児童学科)	『親心の喪失』 松居 和著 エイデル研究所	(所蔵無)・122
馬岡 清人 (元児童学科)	『自閉症だったわたしへ』 ドナ・ウイリアムズ著／河野 万里子訳 新潮社	/493.937/Wil (目西△)・114
	『こころという名の贈り物－続・自閉症だったわたしへ－』 ドナ・ウイリアムズ著／河野 万里子訳 新潮社	/493.937/Wil/2 (目)・114
	『ドナの結婚』 ドナ・ウイリアムズ著／河野 万里子訳 新潮社	(所蔵無)・114
百々 佑利子 (児童学科)	『ロンドンのボヘミアン』 アーサー・ランサム著／神宮 輝夫訳 白水社	/933/Ran (目西)・116
福本 俊 (児童学科)	『中国の旅』 (※他 本多 勝一 の著作) 本多 勝一著 朝日新聞社	/916/Hon (目西)※・112
	『日本奥地紀行』 イサベラ・バード著／高梨 健吉訳 平凡社(東洋文庫)	/291.09/Bir (目西△)・112
	『彼女たちの類人猿－グドール, フォッシー, ガルディカスー』 S. モンゴメリー著／羽田 節子訳 平凡社(20世紀メモリアル)	/489.9/Mon (目西)・112
高野 由美子 (児童学科)	『都市再生を問う－建築無制限時代の到来－』 五十嵐 敬喜, 小川 明雄著 岩波書店(岩波新書)	/518.8/Iga (目西)・120
川上 清子 (児童学科)	『病院で子どもが輝いた日－ひろがれ！病院内保育－』 斉藤 淑子, 坂上 和子著 あけび書房	/369.42/Sai (目西△)・110
石井 光恵 (児童学科)	『私の居場所はどこにあるの？－少女マンガが映す心のかたち－』 藤本 由香里著 学陽書房	/726.1/Fuj (目西△)・104
	『よその子－見放された子どもたちの物語－』 トリイ・ヘイデン著／入江 真佐子訳 早川書房	/378.8/Hay (目)・104
グエン・ヴァン・チュエン (食物学科)	『間違いだらけの健康常識－新事実！ β－カロチンでがんになる？－』 山田 正二監修 PHP研究所(PHP文庫)	/498.3/Mac (目)・117

- 吉中 哲子 (元食物学科) 『美味礼賛』 /596/Bri (目△)※・107
 江澤 郁子 (元食物学科) 『鳥のように風のように―詩集―』 /911.56/Has (目西△)・104
 佐藤 和人 (食物学科) 『異見あり―脳からみた世紀末―』 (所蔵無)・109
 『脳を鍛える』 /041/Tac/1 (目)・109
 立花 隆著 新潮社(東大講義人間の現在(1))
 本間 健 (食物学科) 『いのちの初夜』 /913.6/Hoj (目)・111
 飯田 文子 (食物学科) 『ヨーロッパの食文化』 マッシモ・モンタナーリ著 /383.8/Mon (目西△)・115
 山辺 規子, 城戸 照子訳 平凡社(叢書ヨーロッパ)
 五関 正江 (食物学科) 『ポケないで人生を楽しみつくす―九十三歳ただいま人生絶好調―』 /367.7/Mut (目)・119
 武藤 静子著 海竜社
 沖田 富美子 (住居学科) 『古くて豊かなイギリスの家便利で貧しい日本の家』 /527.04/Iga (目△)・111
 井形 慶子著 大和書房
 『エジプトミイラ五〇〇〇年の謎』 /242/Yos// (目△)・111
 吉村 作治著 講談社(講談社+α新書)
 小谷部 育子 (住居学科) 『借家と持ち家の文学史―「私」のうつわの物語―』 /910.26/Nis (目西△)・105
 西川 祐子著 三省堂
 鈴木 賢次 (住居学科) 『ノートルダム・ド・パリ』(上・中・下) /953/Hug/1 (西)※・109
 ヴィクトル・ユゴー著/辻 昶, 松下 和則訳 岩波書店(岩波文庫)
 平田 京子 (住居学科) 『廻廊にて』 ※・107
 辻 邦生著 新潮社(新潮文庫)
 佐藤 克志 (住居学科) 『車いすでアジア』 /292.09/Yam (西)・117
 山之内 俊夫著 小学館
 篠原 聡子 (住居学科) 『近代国家と家族モデル』 /367.2/Nis (目西)・120
 西川 祐子著 吉川弘文館
 定行 まり子 (住居学科) 『場所のカーパブリック・ヒストリーとしての都市景観―』 /518.8/Hay (目西△)・118
 ドロレス・ハイデン著/後藤 春彦, 篠田 裕見, 佐藤 俊郎訳 学芸出版社
 尾林 道子 (元住居学科) 『骨董市で家を買う』 (所蔵無)・113
 服部 真澄著 中央公論社
 佐々井 啓 (被服学科) 『美のジャポニズム』 /701.1/Mit (目西△)・113
 三井 秀樹著 文芸春秋新社(文春新書)
 小笠原 小枝 (被服学科) 『正倉院の謎を解く』 /709.1/Yon (目)・111
 米田 雄介, 木村 法光著 毎日新聞社
 島崎 恒蔵 (被服学科) 『科学の方法』 /401/Nak (目)・105
 中谷 宇吉郎著 岩波書店(岩波新書)
 増子 富美 (被服学科) 『近代史を拓いた女性たち―日本女子大学に学んだ人たち―』 /367.21/Aok (目西△)※・107
 青木 生子著 講談社
 大塚 美智子 (被服学科) 『日本の繊維産業―なぜ、これほど弱くなってしまったのか―』 /586.0921/Ita (△)・115
 伊丹 敬之, 伊丹研究室編著 NTT出版
 佐野 綾子 (元被服学科) 『本格小説』(上・下) (所蔵無)・119
 水村 美苗著 新潮社
 松梨 久仁子 (元被服学科) 『生きがいについて』 /113/Kam (目西△)※・109
 神谷 美恵子著 みすず書房
 高木 郁朗 (家政経済学科) 『私は経済学をどう読んできたか―世俗の哲学から学ぶもの―』 /331.2/Hei (目)・108
 ロバート・ハイルブローナー著/中村 達也, 阿部 司訳 ダイアモンド社
 今村 奈良臣 (元家政経済学科) 自分の背丈ほどこの1年間で本を読んでみよう 110

- 時子山 ひろみ 『アルプス登攀記』(上・下) エドワード・ウイムパー著
(家政経済学科) 浦松 佐美太郎訳 岩波書店(岩波文庫) /293.45/Why
(目△)※・112
- 住澤 博紀 『日本権力構造の謎』(上・下)
(家政経済学科) カレル・ヴァン・ウォルフレン著/篠原 勝訳 早川書房 /302.1/Wal
(目西)・114
(所蔵無)・120
- 秋元 健治 『経済学で現代社会を読む』
(家政経済学科) ロジャー・ミラー他著/赤羽 隆夫訳 日本経済新聞社
坂田 仰 『評決のとき』(上・下) (所蔵無)・118
(家政経済学科) ジョン・グリシャム著/白石 朗訳 新潮社(新潮文庫)
植田 敬子 『呪縛』 (所蔵無)・105
(家政経済学科) 高杉 良著 角川書店(角川文庫) (※他、高杉 良 の経済小説)
『グローバル資本主義の危機―「開かれた社会」を求めて―』 /338.1/Sor
ジョージ・ソロス著/大原 進訳 日本経済新聞社 (目)・105
『インターネット「超」活用法』 /547.48/Nog
野口 悠紀雄著 講談社 (目西△)・105
- 天野 晴子 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 /338.97/Sti
(家政経済学科) ジョセフ・E・スティグリッツ著/鈴木 主税訳 徳間書店 (西△)・116
堀越 栄子 『現在に生きる遊牧民(ノマド)―新しい公共空間の創出に向けて―』 /309/Mel
(家政経済学科) アルベルト・メルッチ著/山之内 靖, 貴堂 嘉之,
宮崎 かすみ訳 岩波書店 (目西)・106
『「聴く」ことのコア―臨床哲学試論―』 /104/Was
鷲田 清一著 TBSブリタニカ (目西△)・106
(所蔵無)・106
『あなたへ』(1)~(14)
レイフ・クリスチャンソン著 岩崎書店 (所蔵無)・106
『わがままた女は幸せになれる』
河村 ふみ著 フェミックス
- 源 五郎 『徒然草』 /914.45/Sug
(日本文学科) 吉田 兼好著 岩波書店(同時代ライブラリー) (目西△)※・104
『ジョゼフ・フーシェーある政治的人間の肖像―』 /943/Zwe
シュテファン・ツワイク著/高橋 禎二, 秋山 英夫訳 (西)※・104
岩波書店(岩波文庫)
『部分と全体―私の生涯の偉大な出会いと対話―』 /289.3/Hei
W. ハイゼンベルグ著/山崎 和夫訳 みすず書房 (目)・104
『詩学』 /901.1/Ari
アリストテレス著 岩波書店(岩波文庫) (目)※・104
『比較史の方法』 /201.16/Blo
マルク・ブロック著/高橋 清徳訳 創文社(歴史学叢書) (目)・104
『ルネサンスとバロック―イタリアにおけるバロック様式の
成立と本質に関する研究―』 /523.052/Wol
ハインリッヒ・ヴェルフリン著/上松 佑二訳 (目西△)・104
中央公論美術出版
『伝統と個人の才能』 /901.1/Sek/3
エリオット著 思想社(世界詩論大系(第3)) (目)・104
- 清水 康行 『言語の脳科学―脳はどのようにことばを生みだすか―』 /491.37/Sak
(日本文学科) 酒井 邦嘉著 中央公論新社(中公新書) (目西△)・115
『言語の興亡』 /801/Dix
R. M. W. ディクソン著/大角 翠訳 岩波書店(岩波新書) (目西)・115
『「青鞥」を読む―Blue stocking―』 /367.21/Sei
(日本文学科) 日本文学協会新・フェミニズム批評の会編 学芸書林 (目西△)・105
谷中 信一 『環境倫理学のすすめ』 /158/Kat
(日本文学科) 加藤 尚武著 丸善(丸善ライブラリー) (目)・108
『奪われし未来』 /519/Uba
シアア・コルボーン等著/長尾 力訳 翔泳社 (目西△)・108
『沈黙の春』 /519.79/Car
レイチェル・カーソン著/青樹 築一訳 新潮社(新潮文庫) (目△)※・108

藤原 浩史 (日本文学科)	『日本書紀の謎を解く－述作者は誰か－』 森 博達著 中央公論新社(中公新書)	/210.3/Mor (目西)・109
麻原 美子 (元日本文学科)	『本が死ぬところ暴力が生まれる－電子メディア時代における 人間性の崩壊－』 バリー・サンダース著/杉本 卓訳 新曜社	/801.03/San (目西)・106
高橋 智子 (元日本文学科)	『近代能楽集』 三島 由紀夫著 新潮社(新潮文庫)	/912.6/Mis (目)※・111
石井 倫子 (日本文学科)	『私の中のシャルトル』 二宮 正之著 筑摩書房(ちくま学芸文庫)	/950.4/Nin (目)・117
田辺 和子 (日本文学科)	『消えゆく言語たち－失われることば失われる世界－』 ダニエル・ネトル, スザンヌ・ロメイン著/島村 宣男訳 新曜社	/802/Net (目西△)・118
溝部 優実子 (日本文学科)	『GO』 金城 一紀著 講談社	(所蔵無)・116
白石 美鈴 (日本文学科)	『中世説話の世界を読む』 小峯 和明著 岩波書店(岩波セミナーブックス)	/913.47/Kom (目)・113
八木 京子 (日本文学科)	『飛鳥－歴史と風土を歩く－』 和田 萃著 岩波書店(岩波新書)	/291.65/Wad (目西)・119

* (所蔵)欄の表示について(2005.5.16現在の所蔵の状況です)

目: 推薦図書を目白図書館で所蔵 / 西: 推薦図書を西生田図書館で所蔵収録図書所蔵/
△: 推薦図書を図書館以外で所蔵 / ※: 推薦図書が他の図書に収録

(編集: 館員・閲覧係 鈴木 学)

玄関ホール展示「書くこと－日本女子大学所蔵資料による－」実施される

2005年6月4日(土)日本女子大学目白キャンパスで、全国大学国語国文学会五十周年記念大会・統一テーマ「新しいテキスト学の構築をめざして」が開催された。講演・シンポジウム「書写・印刷・電子テキスト－日本からメディアの世界的変革を考える－」があり、同時に目白図書館玄関ホールで、日本文学科企画展示「書くこと－日本女子大学所蔵資料による－」が行われ、次のとおりの資料が展示された。

<鎌倉時代写本>

- ・伊勢物語 ・古今和歌集 ・後拾遺和歌集

<室町時代写本>

- ・明日香井集(雅経家集) ・若草記
- ・新古今和歌集 ・百人一首抄

<江戸時代写本>

- ・八雲口伝(詠歌一体) ・詠歌大概
- ・伊勢大輔集 ・万葉集(宝永版)
- ・御湯殿の上の日記(書写年代未詳 江戸期か)

<明治時代写本>

- ・田舎荘子

<近・現代>

- ・宮本百合子草稿「その柵は必要か」



編集後記 図書館だより第104号(1999年3月)より連載した「今、学生にすすめる本」特集は、第122号(2005年3月)のその18までで一段落としました。6年間にわたり140名の先生方が、執筆してくださいました。特集の一覧により、もう一度学生さんにおすすめします。巻頭のカットは、目白図書館で学生アルバイトをしている井原理江さん(数物科学科3年次)が、前号に続いて描いてくださいました。(田口)